

## 高校生による奄美大島方言調査実践 —鹿児島県立大島北高等学校「聞き書きサークル」活動の一環として—

重野裕美<sup>1</sup>・白田理人<sup>2</sup>

### 1. 背景と目的

奄美大島方言は琉球方言に属する方言である。日本語（本土方言）への言語推移が進行しており、若い世代にはわずかな語彙や文法しか継承されていない消滅危機方言の一つである。言語継承のために、まずは高校生が地元の方言に触れる機会を設けることが重要である。本発表では、鹿児島県立大島高等学校（以下、大島北高と略す）の「聞き書きサークル」に所属する高校生が地元の方言を調査した活動事例を報告する。

### 2. 大島北高等学校「聞き書きサークル」と「聞き書き調査」の概要

大島北高は平成 26 年度奄美市魅力ある学校づくり支援事業に『シマ（集落）の宝』学習講座が採用され「聞き書きサークル活動」をスタートさせている。これまで、奄美市笠利地区のお年寄りに対して戦時中の話、植物名、郷土料理、年中行事等を聞き、年度末に報告書を作成している。今年度は発表者の所属する広島経済大学のプロジェクトの企画<sup>3</sup>として、大島北高「聞き書きサークル」の活動に方言調査の機会を提供してもらい、方言調査の手法の知識・技能を発表者が補填する形式で進めた。



図 1 佐仁, 大笠利, 赤木名地区の位置<sup>4</sup>

<sup>1</sup> しげの ひろみ(広島経済大学) h-shigeno@hue.ac.jp

<sup>2</sup> しらた りひと(琉球大学/日本学術振興会特別研究員) shiratarihito@gmail.com

<sup>3</sup> 広島経済大学平成 27～30 年度共同研究費「奄美大島北部方言の言語ドキュメンテーション・アーカイビング・言語資料公開にむけて」（重野裕美・土屋祐子・白田理人）の企画の一つである。

<sup>4</sup> KenMap で作成した地図を適宜加筆・修正して用いている。

図 1 に聞き書き調査の調査地点である奄美市笠利町佐仁地区、大笠利地区、赤木名地区の位置を示す。大島北高の位置は赤木名地区に隣接している。

「聞き書き調査」に関する主な活動および調査の概要は以下のとおりである。

日 程	事 項
2016年3月25日	大島北高「聞き書きサークル」との共同調査決定
2017年7月27日	大島北高と発表者との事前打ち合わせ、調査概要の説明 (テレビ電話：大島北高－広島経済大学)
2017年8月2日	機材の取り扱い・調査手法の説明、事前ワークシート記入、 奄美市笠利町大笠利地区調査、振り返りシート記入
2017年8月3日	奄美市笠利町佐仁地区調査、振り返りシート記入
2017年8月4日	奄美市笠利町赤木名地区調査、振り返りシート記入
2017年12月11日	「奄美市笠利まちおこしフェスティバル」(笠利総合支所、笠利教育支所主催)にて「聞き書きサークル」が調査活動を報告

(1) 調査者

- ・ 鹿児島県立大島北高等学校「聞き書きサークル」  
(1年生・2年生 [計 15～17名] 5～6名程度の3グループに分割)
- ・ 教員 (3～4名)
- ・ 地元研究者 (3～5名)
- ・ 発表者

(2) 話者

- ・ 奄美市笠利町大笠利地区 (6名) , 佐仁地区 (6名) , 赤木名地区 (3名)

(3) 調査内容

- ・ 語彙調査 (語彙) , 文例調査 (文法)

(4) 高校生と発表者との関わり

- ・ 機材 (録音機, 三脚, SDカード) 貸出し, 機材使用法, 調査票, 調査手法の支援

3. 教育教材

「聞き書き調査」で使用した教育教材の詳細は、以下のとおりである。

(1) 方言調査フェイスシート

- ・ 調査時の詳細, 話者情報, 承諾事項

(2) 事前ワークシート

- ・ 調査地点について知っていること，知りたいこと，抱負・期待

(3) 振り返りシート

- ・ 初めてわかったこと，印象に残ったこと，考えたこと

(4) 調査票

- ・ 基礎語彙調査票（3パターン），文例調査票（3パターン）

### 3. 1. 調査票の概要

国立国語研究所の危機方言プロジェクトの調査票（基礎語彙／文法）を元に，語彙調査票及び文例調査票を作成した。

語彙調査票は，班の数に合わせてA，B，Cの3パターン作成した。Aは身体，Bは親族・人間関係，Cは生き物の語彙項目を基礎語彙調査票からそれぞれ40項目ずつ選んだ。参考として，先行文献を元に，予想される方言語形をひらがなで併記した。特徴的な語形が多く見られる佐仁方言は方言名も加えた。語彙は単に日本語と語形が違うもののみではなく，同じ語形でも意味の範囲が異なるものも入れ，高校生に自らそれらの違いについて気づかせるようにした。以下に調査項目の一部を示す。

A：頭，髪，つむじ，白髪，目，眉，額，鼻，耳，口，舌，歯，顎，髭，毛， ……他

B：人，親，子供，末っ子，親子，孫，父／おとうさん，母／おかあさん， ……他

C：鳥賊，蛸，海老，ウニ，貝，亀，蟹，魚，鯨，鰹，飛魚，イルカ，ナマコ， ……他

文例調査票は，15例文ずつを選びX，Y，Zのパターンを作成し，語彙調査票と同様に注意事項と方言語形を示した。以下に調査項目の一部を示す。

X：おれは きょうは いそがしい。 ……他

Y：孫が 去年から 東京に いる。 ……他

Z：去年 いとこが 中学の 先生に なった。 ……他

### 3. 2. 調査法の支援

さらに，調査法の支援として調査項目の前に注意事項として以下を示した。

(1) おすすめ方と注意

- ・ 「この方言では〇〇を何と言いますか」と質問して，答えを録音し，記入欄に書き込みます。
- ・ 共通語と方言が一对一で対応していない場合があります。具体的に体のどの部分，範囲を指すか，適宜質問しましょう。

- ・ 答えが複数ある場合は、すべて録音／書き取りを行います。
- ・ 答えが複数ある場合は、意味の違い／使い分けがないか質問してみましょう。
- ・ 録音を後で聞きやすくするために、方言を教えてくれる方の声と自分の声がかぶらないように注意しましょう。

## (2) 「方言例」の欄について

- ・ 主に笠利町方言の過去の調査結果をもとにしています。表記は小川晋史(編)『琉球のことばの書き方』に従っています。
- ・ (佐)は佐仁地区の方言です。
- ・ 「方言例」はあくまで参考です。実際は地域、年齢などでことばが異なっているかもしれません。
- ・ 「これで合っていますかーはい／いいえ」ではなく、かならず発音してもらって録音と書き取りを行いましょ。

## 4. まとめ

当該言語が消滅の危機に瀕していることに鑑みると、本活動は方言の記録及び研究に資する役割が大きく、今後の研究活動及び教育・継承活動を促進するものとなる。高校生は、地元の方言の学習、生の方言（特に会話）を聞く機会を得るとともに地区によるの文化の違いを、方言の面から学んだ。以下、振り返りシートから得たコメントの一部を引用する（振り返りシートから適宜編集し掲載）。

- ・ 方言について詳しく知ることができた。この知識と関心を大事にして活かしていこうと思う。
- ・ 方言の中にもある目上に対して使う敬語の話を聞いて、自分の目上に対する言葉遣いについてもう一度考え直そうと思った。
- ・ 方言は昨日行ったところと違っていた。
- ・ 方言の訳が分かってとても良かった。僕のお婆ちゃんは龍郷に住んでいて、話すことばがすべて方言なのでなんて言っているのか分からなくて困っていたけど、この3日間で知った方言の一つでも活かしたら良いと思います。地域で方言は違うけど同じものもあると思います。
- ・ 今回の聞き書き調査をしてみて今まで知らなかった方言や出来事、昔の奄美の現状などを詳しく聞くことができるとても勉強になりました。私たち、島の出身だからこそ知っておかなければいけない、そして、伝え残していかなければならないことなんだなと思いました。